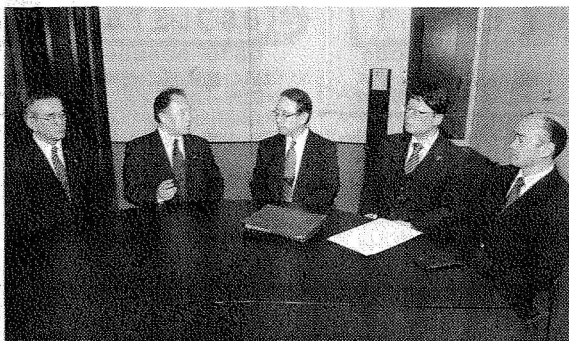


脳卒中の予防策探る

党青森県本部

生活習慣の専門家と意見交換
見直しなど



脳卒中予防策について奥村教授（中央）と意見交換する党青森県本部の議員団

脳卒中による死亡率が高い青森県で改善策を探るため、公明党県本部（伊吹信一代表＝県議）の議員団は先ごろ、「青森市脳卒中等友の会」が主催した講習会に参加。講演を行った弘前大学大学院医学研究科の

奥村謙教授と意見交換した。

講習会で奥村教授は、高血圧が脳卒中の最大の危険因子の一つであることを強調。その上で、1人1日の塩分摂取量が、日本人の平均10gに対して「青森県民

は12gと多く、高血圧になりやすい。食生活の改善が必要だ」と訴えた。

さらに、奥村教授は「1日の塩分摂取は6g未満とするなど、生活習慣の見直しと日ごろの血圧管理を」と呼び掛けた。

議員団との懇談で奥村教授は、脳卒中の予防策について「生活レベルでの改善が望ましい。行政が積極的に生活習慣病予防などのキャンペーンを」と述べた。

また、「県民が必要な治療を受けるためにも医師の偏在の解消を」と訴えた。

伊吹県代表は「生活習慣改善の周知を図っていくとともに、大学機関との連携を強化したい」と語っていた。